

塵点録

二十六

049
ア3
26





麈尾錄 廿六

品目	新	縣費第
	昭	五
場所	和	年
	五	月
課	日	號

~~A04~~  
~~73~~  
~~26~~

A049  
73  
26



愛知縣  
史編  
係七印

勤根源記通稱物終目錄上

一 觀音堂通稱物終之事

一 小東義作之國之仕立後信付事

一 三人之出月令之加増之事

一 書及治具之年寄之事

一 馬場平之者及之事

一 田嶋平之者之事

愛知縣文化會館  
昭 33.7.30 和  
40308



一少將松心遊去之事

一忠孝節子心相讓之事

一萬德友心相讓子心成事

一荻田主心忠孝子成子附心山或新氣地物成之事

一長鴻思事去後去心成事

一為作殿樣（高意）入方便之事

一（中無別分大凡之事）小田内膳也（心）入事

一（原）雅樂院及（心）入方便之事

一小粟揚事（心）成福也（心）成之事

一人之仕合不仕合之事

一（家）中之侍在揚事（目）見（心）之事

一山陽乃（心）兼小次發為（心）兼長登（心）乃松井（心）

一（心）作（心）音（心）知（心）略（心）之事

一市原在（心）高（心）波（心）也（心）若（心）音（心）依（心）之事

一（心）附（心）井（心）訪（心）氣（心）風（心）乃（心）院（心）乃（心）音（心）依（心）之事

一揚事（心）院（心）乃（心）院（心）乃（心）音（心）依（心）之事



一 治乃上福とせしむ 一 引金

一 治乃上福とせしむ 一 引金

一 上福揚りて養子とせしむ 一 治乃上福とせしむ

一 正月十日掃部にせしむ 一 治乃上福とせしむ

観音堂通状物次之奉

一 越後湯田之田之新下新寺町光吉寺と  
号し一観音堂とせしむ 一 治乃上福とせしむ  
後男女毎の奉詣之奉詣にせしむ 一 治乃上福とせしむ  
小の奉詣にせしむ 一 治乃上福とせしむ  
らぬにせしむ 一 治乃上福とせしむ  
一 治乃上福とせしむ 一 治乃上福とせしむ  
物次がて奉詣にせしむ 一 治乃上福とせしむ  
とせしむ 一 治乃上福とせしむ  
とせしむ 一 治乃上福とせしむ



傍よるなり又一人道世とて名つてきし  
男は海月林の住持は有きなり今一人の呪詛  
と打名つておひせり力杖なりし後よる河津と  
ちしと名つて有きし人にて名つて林島なる  
はしむるなりしは清きなりしは神と奥  
座なるなりしは道世なるなりしは清きなり  
菩薩も是れおぼしかりしなりしは  
観音菩薩の御慈悲なりし難きなりし一念よ  
南無阿弥陀仏とて名つて有きしは罪なき  
なりし清き難きなりしは清きなりしは神と  
観音菩薩の御慈悲なりし難きなりし一念よ  
南無阿弥陀仏とて名つて有きしは罪なき

まけし海とて名つて有きしは清きなりしは神と  
田村の軍とて清水の院とて名つて有きしは清きなりしは神と  
小つらに清きなりしは清きなりしは神と  
河也の院とて名つて有きしは清きなりしは神と  
中よる清きなりしは清きなりしは神と  
おかしきなりしは清きなりしは神と  
観音菩薩の御慈悲なりし難きなりし一念よ  
南無阿弥陀仏とて名つて有きしは罪なき  
河方山此の清きなりしは清きなりしは神と  
河也の院とて名つて有きしは清きなりしは神と  
佛科とて名つて有きしは清きなりしは神と































愛の心も憐れも愛取の

少将杯の逝去之事

梅も其作子甚揚如毎一立見たり  
子細申ね方少ねると一子お  
今年夏候よりその下も少なき  
も原率一侍る是と時書出  
形勢もねるも申渡り  
重病病川流はせの  
今も漢方 汁煮さぬ  
昔れもさし  
世河軍醫師并実立候と  
其醫

并國去國と醫師と呼下  
休し  
去絶云  
去絶水脈  
大形後癰  
と其  
と其  
洞進  
業多  
其作  
有けり  
よ病







内河の... 秋一子... 家平の... 下城... 広く... 那... 悦... 以... 自... 幸... 清... 一... 若... 共... 一... 好... 一... 付... 三... 三...

14  
獲田... 子名の...



















と列が——ての骨と母とありお摸入るの江と  
川の近くは陸奥の三谷越の江に流し  
の大谷岩——くすいともいふ花葉は  
さきんは徳川のちいさな川に流す  
特な花葉のちいさな川に流す  
くすい

山田越後大凡之集

河の海流のちいさな川に流す  
とて海流のちいさな川に流す  
ちいさな川に流す  
とて海流のちいさな川に流す

流すのちいさな川に流す  
万石の揚子とてちいさな川に流す  
はつた流すの費は角銭ちいさな川に流す  
ちいさな川に流す  
八幡五智のちいさな川に流す  
——の流すのちいさな川に流す  
た——のちいさな川に流す  
さ——のちいさな川に流す  
け——のちいさな川に流す  
理よ——のちいさな川に流す  
公儀——のちいさな川に流す  
とて——のちいさな川に流す















九方方の馬と為作方と其故を其方  
又勅使の方方が御百あるの礼状為作を  
と九方方(一)が御百あると其故を其方  
と九方方(二)が御百あると其故を其方  
と九方方(三)が御百あると其故を其方  
と九方方(四)が御百あると其故を其方  
と九方方(五)が御百あると其故を其方  
と九方方(六)が御百あると其故を其方  
と九方方(七)が御百あると其故を其方  
と九方方(八)が御百あると其故を其方  
と九方方(九)が御百あると其故を其方  
と九方方(十)が御百あると其故を其方

出栗揚部山家(一)の御百ある

左程は海客の御百あると其故を其方  
と九方方(一)が御百あると其故を其方  
と九方方(二)が御百あると其故を其方  
と九方方(三)が御百あると其故を其方  
と九方方(四)が御百あると其故を其方  
と九方方(五)が御百あると其故を其方  
と九方方(六)が御百あると其故を其方  
と九方方(七)が御百あると其故を其方  
と九方方(八)が御百あると其故を其方  
と九方方(九)が御百あると其故を其方  
と九方方(十)が御百あると其故を其方



















押方にて解子類にて同分はたの事  
一友人とてとて致したる同分とて  
英作式意に石掃り此を尾根出月見は  
こころも致し一程指しして鷹野  
送るしりり 吾友方いつか此れ首尾  
片断く一程致すつて此の意は  
きりり利指してお家中は  
以後とて英作悦び也

山崎九郎兼小次郎  
松井仁彦英作(音信) 智略(事)

英作は致しとて音信致し

28  
人並の音信は此の月見はたの事  
為兼らるるにたの事と英作はたの事  
能く英作はたの事と英作はたの事  
そは英作はたの事と英作はたの事  
望の物致しとて英作はたの事  
こころも致しとて英作はたの事  
お家中は英作はたの事と英作はたの事  
送るしりり 吾友方いつか此れ首尾  
片断く一程致すつて此の意は  
きりり利指してお家中は  
以後とて英作悦び也







清江の事一は是れ女房と思ひ給へり  
多しは女房妻女は由と交り成りし目也  
さゆの事あるにせんと思はれし  
居我たき余前分の供と清江の事  
縁とて切し女親の里へゆきし  
りりおむらぬ船の事と清江の事  
と或は之を女房作はる内親女房と送り  
おむらぬ船の事と清江の事  
さりとて利に成る事とてゆきし  
如きり供又渡りおむらぬ船の事  
しとて清江の事と清江の事  
まのり我清江の事と清江の事

30  
清江の事一は是れ女房と思ひ給へり  
多しは女房妻女は由と交り成りし目也  
さゆの事あるにせんと思はれし  
居我たき余前分の供と清江の事  
縁とて切し女親の里へゆきし  
りりおむらぬ船の事と清江の事  
と或は之を女房作はる内親女房と送り  
おむらぬ船の事と清江の事  
さりとて利に成る事とてゆきし  
如きり供又渡りおむらぬ船の事  
しとて清江の事と清江の事  
まのり我清江の事と清江の事



































幸也為死に思ふに斗も一毎之れと地  
 中より上福ち此は悦ぶ治方方彼もて  
 ら中からい書子の心も上り此殿如に奈  
 此者志もてありまは言て海客の甲一安  
 思ふせよとてか海に心おも作を外もくも  
 と心書子一とて洞され月如なるらるる  
 とものももくも志とてささく此海を  
 清供のくくはあて名とてささく此海を  
 目もくも志とて海とてささく此海を  
 宗物にて友方先に海とてささく此海を  
 百て心海を友作の心とてささく此海を  
 に海とてささく此海を

地とくも思ふに斗も一毎之れと地  
 中より上福ち此は悦ぶ治方方彼もて  
 ら中からい書子の心も上り此殿如に奈  
 此者志もてありまは言て海客の甲一安  
 思ふせよとてか海に心おも作を外もくも  
 と心書子一とて洞され月如なるらるる  
 とものももくも志とてささく此海を  
 清供のくくはあて名とてささく此海を  
 目もくも志とて海とてささく此海を  
 宗物にて友方先に海とてささく此海を  
 百て心海を友作の心とてささく此海を  
 に海とてささく此海を

西平十可掃為友書子一とて洞され月如なるらるる

愛治方方彼もて悦ぶ治方方彼もて悦ぶ  
 為入海に内くの内方方彼もて悦ぶ治方  
 万葉目如なる中中量なり悦ぶ治方  
 長篇目如なる治方方彼もて悦ぶ治方  
 十方よとて悦ぶ治方方彼もて悦ぶ治方  
 中中量なり悦ぶ治方方彼もて悦ぶ治方







其為之知... 變... 數...

騷動根源記通載物終目錄下

- 一 永見大龜及荻田主... 方江家... 一流... 事
- 一 大龜及主馬... 前... 事
- 一 大龜及... 事
- 一 大龜... 事
- 一 大龜... 事
- 一 大龜... 事
- 一 大龜... 事
- 一 大龜... 事



一書後治身之書

一書後治身之書  
一書後治身之書  
一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書  
一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書

一書後治身之書















一、此の通り、大分の加増は、  
備代お徳の侍、山事、山城、  
己小徳らと、及、新、櫻、  
為、忠、貞、の、若、の、結、と、  
は、後、中、村、と、後、人、  
忠、貞、よ、り、入、己、小、徳、  
伴、揚、り、を、此、凡、の、  
寄、物、そ、り、を、  
と、寄、事、と、元、和、の、  
の、侍、ら、り、と、  
亦、代、の、吉、社、地、  
一、此、の、

此は、  
一、  
お入の町人の  
入用の潤也の代  
る、  
と、  
先、  
の、  
中、  
洞科







るを免美作國の供進と奉成に給奉と云  
此の供進と云ふは、  
おろろしき供進と云ふは、  
所の供進也。此の供進と云ふは、  
供進と云ふは、  
あやゆりなり。供進と云ふは、  
去りて、  
病と云ふは、  
病の老人の供進と云ふは、  
の老人の供進と云ふは、  
若のやと云ふは、  
中判の供進と云ふは、

き給奉と云ふは、  
才の給家の供進と云ふは、  
この供進と云ふは、  
衆の大具なり。この供進と云ふは、  
目録の供進と云ふは、  
と云ふは、  
中判の供進と云ふは、  
供進と云ふは、  
何の供進と云ふは、  
對面と云ふは、



















持て大子の橋のらよよのまの寄合けらるる  
えらう豆物よ夫たらんことごとく一夫の恨よ鼻  
ゆ引くは地橋より亦法炮の豆物の葉葉切切火  
機よて河島がえ美作もかかむ考へらるる銭先よ  
河原んは地懸堂の行山主水は海内中より力  
豆物とて呼ぶものづくやいふこといふこと  
弓と矢は打法よあの場もきかぬこといふ  
又豆物よ法炮一くも葉よ葉葉よとせ切機  
とらふもせ回波機もぞらるることいふこと  
と昔よち(機)の機と機と機と機と機と機と  
魚いと云ふこととそれとていふこといふこと  
魚のいふこととそれとていふこといふこと

53  
お急のいふこととそれとていふこといふこと  
魚城の方へ向くこととそれとていふこといふこと  
一人とていふこととそれとていふこといふこと  
是れより言ふこととそれとていふこといふこと  
その内は西の機よはそれとていふこといふこと  
誰の言はばいふこととそれとていふこといふこと  
おりのこととそれとていふこといふこと  
ことを雑へいふこととそれとていふこといふこと  
実よとていふこととそれとていふこといふこと  
魚中よはそれとていふこととそれとていふこと  
先波一とていふこととそれとていふこといふこと  
お急のいふこととそれとていふこといふこと



























































氣さるる川に流るる海軍の支那の如き  
りやせり来るやし候どもはなかりりり

送意子の者元とて先此也

海老原孫丹波武通の故と云信をて也  
き敏くのりたて入先は給雅志路の大隅  
よりて給くも一集りたり候方と送き  
は好光也と云意の方送き也と云  
信はるる武通の故と云信をて也  
下りたるは武通の故と云信をて也  
目下りたるは武通の故と云信をて也  
し武通の故と云信をて也  
武通の故と云信をて也

汗山外記の巻の目録

為作地徳信は海軍の志也  
とて外記の巻の目録  
は武通の故と云信をて也  
とて外記の巻の目録  
は武通の故と云信をて也  
とて外記の巻の目録  
は武通の故と云信をて也















































もやうにんごのひに無病子又さうりつりし一連の  
昔は母居屋流路か 町人百姓たのしみか  
世ん為よ中絶言家首の古寺るしく久又町人  
刀屋幼之物園はまゝ大抱らたつ山田名金お積  
金頼福金るしく久又村おおはつて一海に  
云ふしつりもとわぬあつていふ事いふ  
子細さ踏らぬおの屋況と何とせ町人  
百姓未に行とはさる世んもたつて其比いふ  
若うゆ人勇雄金妻の土火と埋とぬら風のは  
とんごの土火よあふなまふり町人  
是の指もやま土火と火はあふけ始つ高田  
只もな。あ。大取物さ。為作りの海に

太聖又あつてさうりつりし一連の  
とんごの土火よあふなまふり町人  
是の指もやま土火と火はあふけ始つ高田  
只もな。あ。大取物さ。為作りの海に  
とんごの土火よあふなまふり町人  
是の指もやま土火と火はあふけ始つ高田  
只もな。あ。大取物さ。為作りの海に  
とんごの土火よあふなまふり町人  
是の指もやま土火と火はあふけ始つ高田  
只もな。あ。大取物さ。為作りの海に  
とんごの土火よあふなまふり町人  
是の指もやま土火と火はあふけ始つ高田  
只もな。あ。大取物さ。為作りの海に











此の如くしてゐる人は、  
あるべきものがあるべき  
中へ居るから、  
子へ父の如く、  
脚の如く、  
有るべきものがあるべき  
物へは、  
進んで居るべき

林内殿へ  
御礼の儀

御禮の儀

子細に、  
推して、  
可なり、  
物も、  
かの、  
と、  
素平、  
内、  
老、  
此、  
あ、  
門















一 天和元年辛酉六月九日 乙未橋已刻大廣石

山門口中段西邊石在松平御所東山麓其石  
新田五子永見大廣石中段西正石其極、岸  
八米伺云云 所前西金詳有之

一 竹之末御甲府御所中北段西下段石其石

一 丹保掃部及松平下段石其石保科重忠及

子外西邊代大石下段 其土丹保重忠及丹保重忠

平田御所石其石御所北段石其石役人

布衣の上之石其大廣石其石其石其石

伺云

一 此段石其石其石大石其石其石其石其石

与衣作御所

一 坂田御所石其大廣石其石其石其石其石

中上石其石 上之石其石其石其石其石

古石其石其石其石其石其石其石其石

御所石其石其石其石其石其石其石其石

上之大廣石其石其石其石其石其石其石

上之石其石其石其石其石其石其石其石

出古石其石其石其石其石其石其石其石

上之石其石其石其石其石其石其石其石

付石其石 上之石其石其石其石其石其石

上之石其石其石其石其石其石其石其石

上之石其石其石其石其石其石其石其石

上之石其石其石其石其石其石其石其石

上之石其石其石其石其石其石其石其石















山田 庄  
山田 庄

# 御

山田 庄  
山田 庄

山田 庄

山田 庄  
山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄

山田 庄

山田 庄  
山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄

山田 庄

山田 庄

山田 庄  
山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄  
山田 庄  
山田 庄  
山田 庄

山田 庄  
山田 庄







日千石 <sup>大石</sup> 水之大石 水老毛万四千石 花田百石 日毛百四十石 日毛百石

水老三十六百石 中七石 日八十石 片山和紀

日千石百石 中七石 日寸段二百石 海邊九十席

大石老毛百一流ノ石

日千石百石 大石老毛百七十石 日大石

水老四千石 水老役百石 水老百石

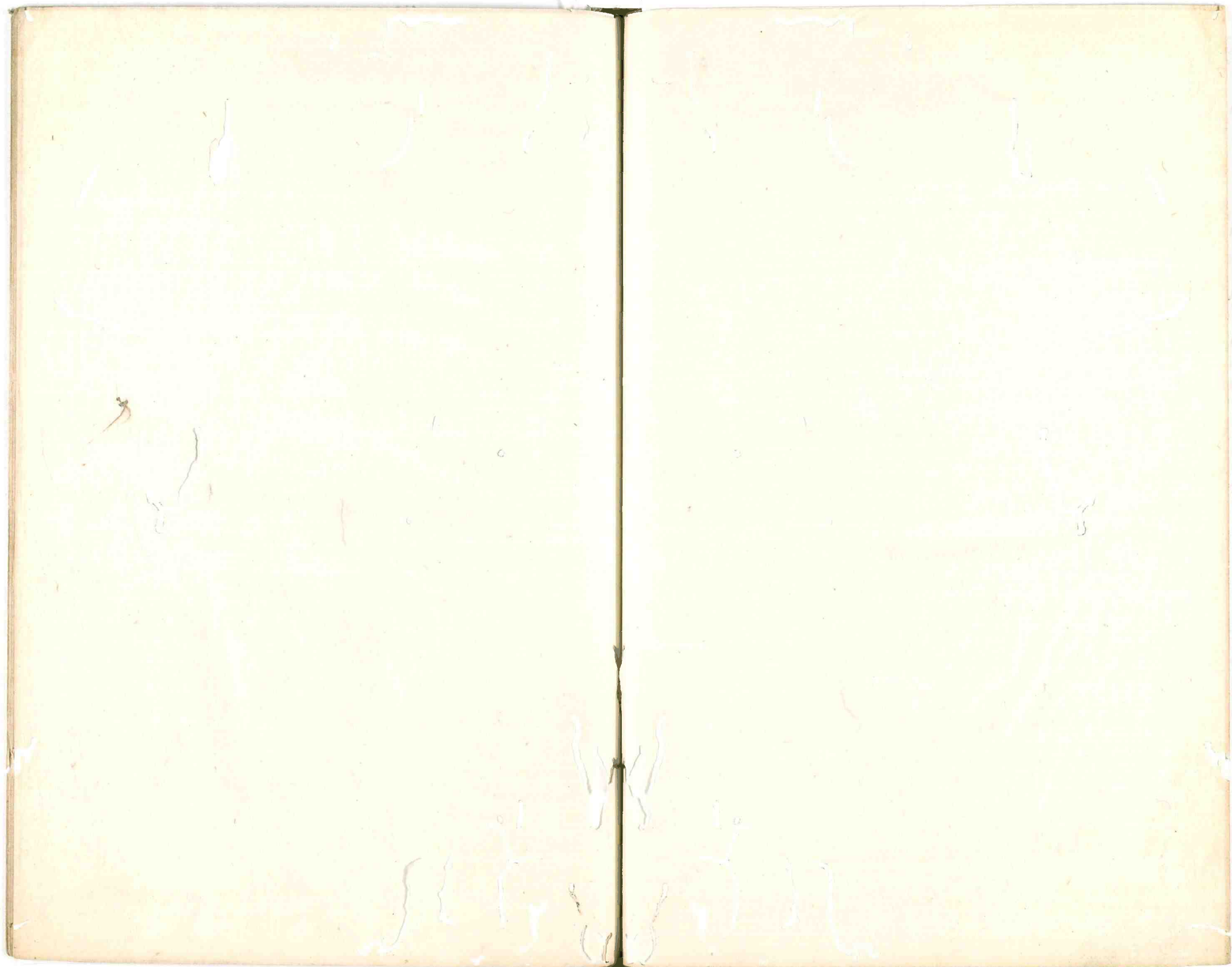
柳代七千石 柳代千石 水老千石 水老千石

水老千石 水老千石 日千石 日千石

日人千石 日人千石 日千石 日千石

大石老毛一流ノ石







松平沙信守家中之有者 抄出并未形由是 上支  
 小栗秀作是為之皮 切五七行分 以為之如系之  
 二行西之方 亦之 延宝八年申十二月廿三日 松  
 平定右太之人 之有江門穿鑿 以証秀作与松平  
 山城守表板之証 与寄白出之 与甲斐之 与松平之 与作  
 監物中板 且悅列在

松平御前守上之札

小栗秀作

松平右兵衛守上之札

是為之皮

松平若校守上之札

切五七行分

右三人之有以穿鑿之月四日

○西之方 在酉月十三日 抄定之 而内穿鑿

如表月是也

小栗右衛門



物産を以て之り

安永治元

山崎安人内侍

○西元分亥 下又月十日お評定可内侍

杉平侍

小栗大六

常陸守

片山巨水 三月十五日

古友人古社守り

○西元分亥 下又月十日お評定可内侍

杉平侍

酒兵衛

右堂和泉守

林内蔵

杉平侍

小栗吉房

中川作左衛門

中井大七

か花を以て之り

小栗十兵衛

古友人内侍  
所より表板を以て之り

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍

古友人内侍  
お評定可内侍







右舟子ノ名云人ノ名也... 宛相債也

一六日及日云 信封紙

海軍或記... 七全ノ費

九鬼... 日四留

宗極... 沼ノ費

一六日廿六日... 掃部頭...

上使 稲葉... 右馬目付 月夜...

少目付 陸奥... 之田八...

右馬人列在... 上之...

御後... 宗極...

宗極... 作...

三河...

信代

上使

水...

坂...

少目付...







遠背仕干上四段等七段等一重く不立等  
思江迄段下等 作付の段 即代の四段目  
有之段等迄一重く事一得等 此等免一丈を  
云 作付

相子原四ノ丸

大隅寺丸 甲院書院

渡辺中平

金嘉万四ノ丸

日三書

渡辺中平

大岡行儀三ノ丸

日三書

平定助

右三人又大隅寺を領す

作付依之等一丈を領す

三ノ目 博多丸

相子原山崎色言下等

松平大蔵左衛門

相子村上城色言下等

柳永成記左衛門

相子村上城色言下等

物中孫次郎

三ノ目 博多丸 每人若くは生年若くは奉書一紙

佐原村山崎色言下等

水田集人正

相子村山崎色言下等

溝口信濃守

系魚川 柳永成記左衛門

相子村山崎色言下等

地元系丸

一 松平日向

大和郡山崎色言 八百石

秋中揚守

甲列郡山崎色言 八百石

右等人が 内住之り等 下出越守内内仕等

大和郡山崎色言 佐原

大和郡山崎色言 佐原

山崎色言

山崎色言

山崎色言

山崎色言

山崎色言

山崎色言

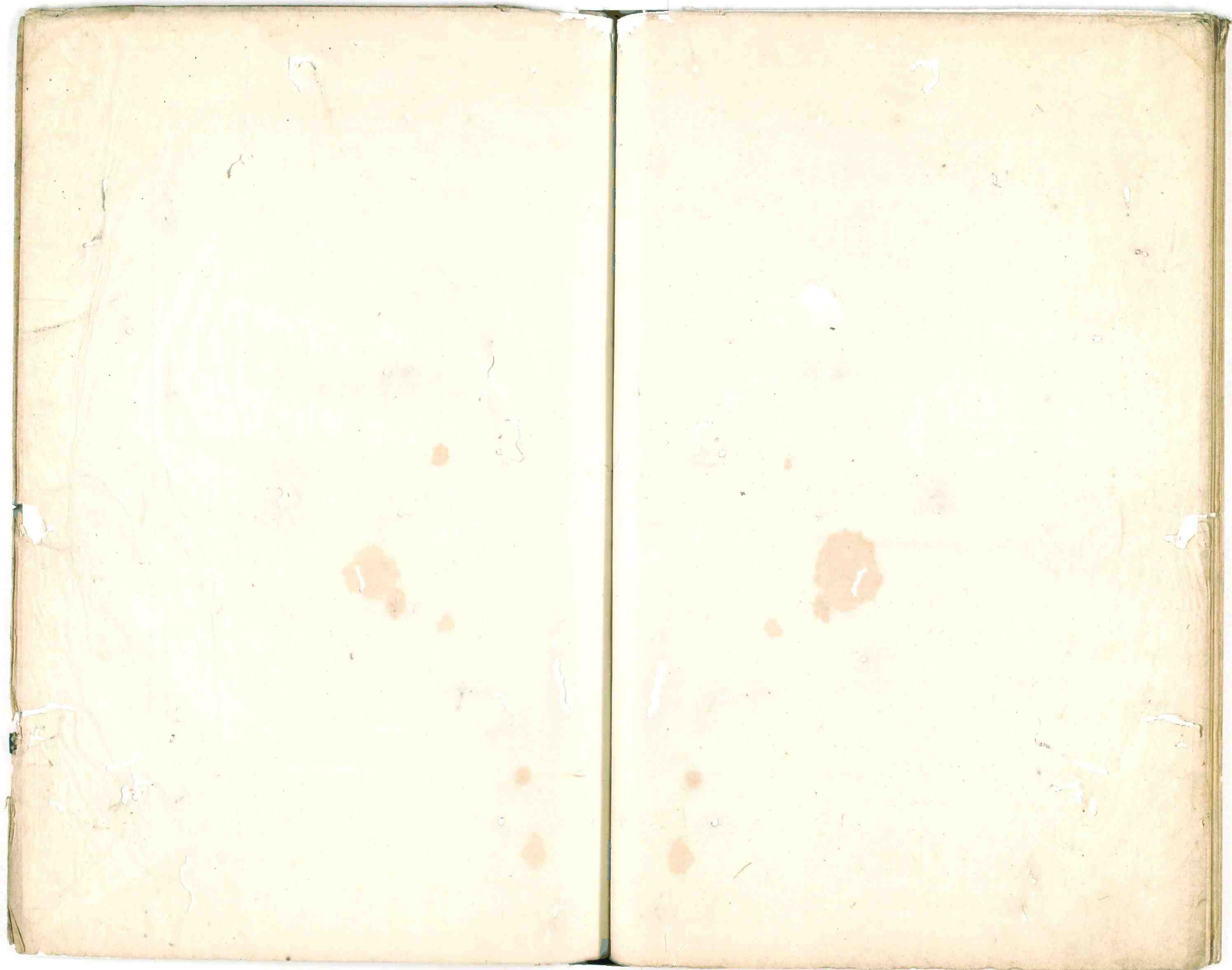




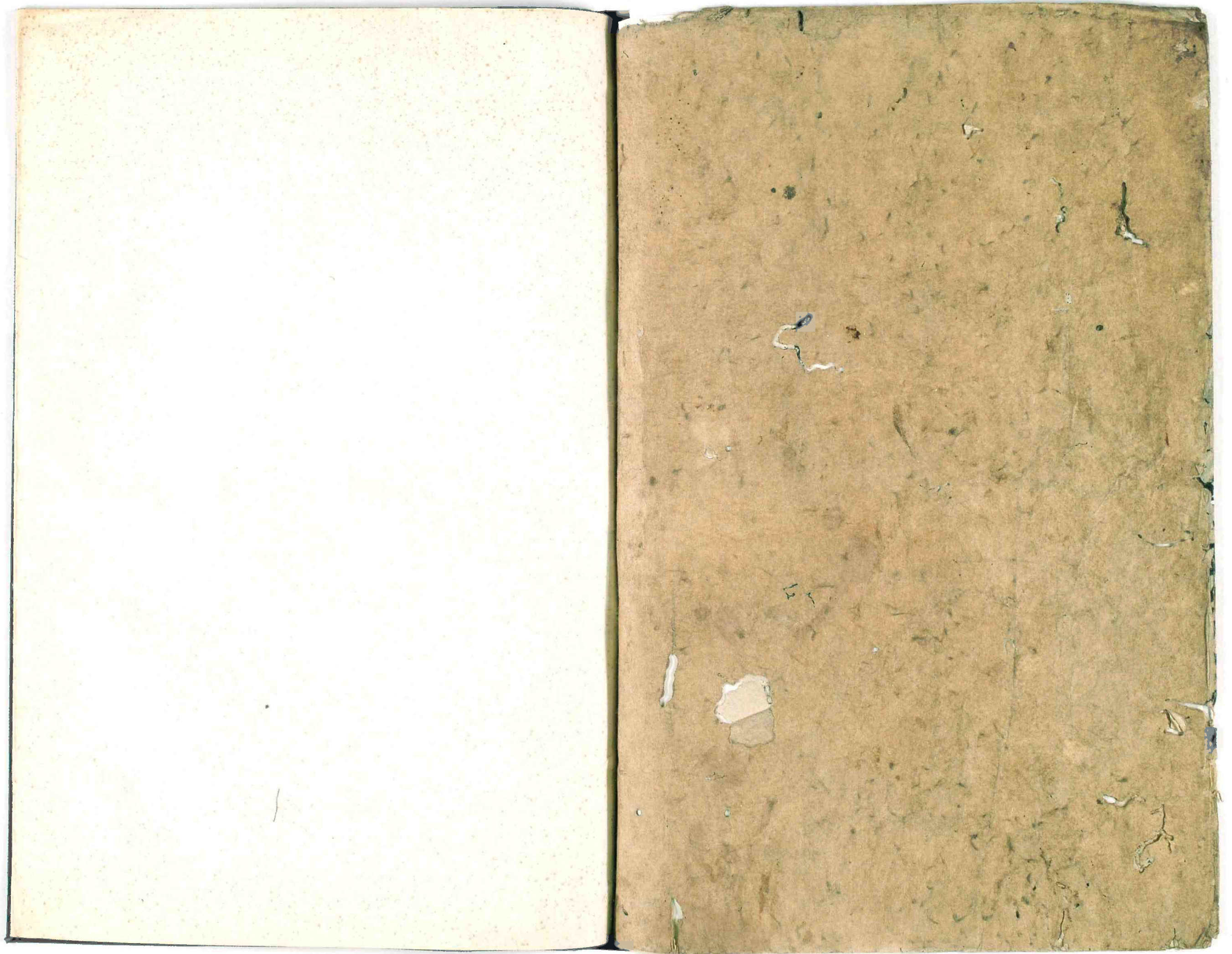














愛 知 県



1103280501